

平成28年度 第3回飛騨神岡高等学校
地域と共に活力ある学校づくり推進協議会 議事要旨

日 時	平成29年2月2日(木) 10:00~12:15
場 所	飛騨神岡高校 ゼミナール室
出席者 (敬称略、 委員名は 50音順)	<p>(委員)</p> <p>上野 峻 飛騨市企画部企画課 牛丸 昌弘 神岡鉱業株式会社 常務取締役 大前 孝 飛騨神岡高等学校育友会 会長 上葛 健介 社会福祉法人神東会 事務局長(飛騨神サポーター) 菊田 昇司 北陸電力株式会社神岡営業所 所長 坂田 浩一 飛騨市立神岡小学校 教頭(代理) 下田 章 有限会社カワデン 代表取締役(飛騨神サポーター) 都竹 淳也 飛騨市長 出井 浩樹 牛丸石油株式会社 代表取締役(学校評議員) 中西 清浩 飛騨市立山之村小中学校 教頭(代理) 中林 裕 飛騨市神岡振興事務所 所長 布俣 正也 岐阜県議会議員 野村 俊巳 飛騨市立神岡中学校 教頭(代理) 堀之上 亮一 飛騨市企画部企画課 水上 雅廣 飛騨市企画部 部長 山本 幸一 飛騨市教育委員会 教育長 和仁 邦雄 神岡商工会議所 専務理事</p> <p>(学校側)</p> <p>石田 達也 校長 河渡 正史 教頭 野村 宏治 事務長 宮垣 雅巳 教務主任 中田 和美 進路指導主事 楯 幸司 推進担当 中村 英樹 担当</p>
議事概要	<p>1 生徒の発表を聞いて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒の成長に感動している。少人数教育のレベルの高さ、学校生活の中でコミュニケーション能力が育まれていることがよくわかった。 ・ 発表してくれた生徒の姿を見ても、高校できめ細かな指導がなされていることがよく分かる。生徒の成長した姿が、高校の一番のPRである。 ・ 非常に感銘を受けるとともに、選ばれる学校づくりを考える大切なヒントがあった。総合学科の仕組みは、いろいろな進路をじっくり考える上で適していることや、小規模高校は、リーダーになれるチャンスが豊富だという、飛騨神岡高校の良さがよく分かった。 ・ 発表した生徒が特別というわけではない。保護者として、子どもが飛騨神岡高校に入学できて本当によかったと感じている。

- ・ 自分が知っている先輩が、今日のような発表を目の前でしてくれると、中学生にとって大きな刺激になる。高校生が直接中学生に働きかける機会を作ってもらいたい。

2 高校の現状について

- ・ 飛騨神岡高校は県がお金を出してくれる市立の高校だというくらいの気持ちでいる。地域連携の全国的なモデル校である。
- ・ 飛騨神岡高校と吉城高校が活性化するための予算を、飛騨市に付けていただいたことが嬉しかった。市民として、市内の高校2校の取組に注目するようになった。
- ・ 地域のためと思って学校評議員を引き受けたが、現在は飛騨神岡高校のファンになった。今後も飛騨神岡高校を応援していきたい。
- ・ 中高連携が始まって6年、年々飛騨神岡高校の良さを伝える機会は充実している。
- ・ あいさつ運動やロボットの出前授業で訪問してくれる高校生を、小学生が憧れをもって見ている。
- ・ 高校を訪問した際、英語の授業でICTを活用した先進的な授業が展開されていた。小学校から高校まで、授業改善に向けて互いの授業を見合い、高め合いたい。
- ・ 出前授業で小学生も一緒に指導いただきありがたい。また、週1回体育の先生に高校から来てもらっているお陰で球技大会が盛り上がった。高校の先生という立場で、放課後にもお話しいただいたり進路指導いただいたり、大変ありがたい。
- ・ 「活力ある学校」とは選ばれる学校であり、そのための大事なヒントを生徒が持っているのではないか。なぜ飛騨神岡高校を選んだのか。選んでどうだったのか。卒業間際の生徒にアンケートを取ってもらいたい。

3 来年度の取組について

- ・ 高校が飛騨市にもたらす影響は大きい。来年度は、高校への飛騨市の支援をさらに拡充したい。
- ・ 生徒たちは、飛騨神岡高校への入学を早い時期に決めている。来年度、小学生対象の事業を計画していることは素晴らしい。
- ・ 進路希望調査によれば、飛騨神岡高校を希望する生徒が多く、大変嬉しい。連携中学校の生徒をより一層増やしたい。
- ・ 地元企業の人材確保が難しくなっている。高校で地元企業を紹介するような場を作ってもらいたい。
- ・ 毎年、国公立大学5名以上の合格者を期待している。
- ・ 飛騨市の小中学校の教員、保護者に、地元高校に対する理解を深めてもらいたい。地元の企業に対する保護者の理解を高める必要もある。
- ・ 「夢のたまご塾」の催しには全国から素晴らしい高校生が大勢集まってくる。飛騨神岡高校や吉城高校の生徒にも積極的に参加してもらいたい。
- ・ 近年の飛騨神岡高校の活躍は目覚ましい。教員や生徒の負担が大きくなって疲弊しないように、取組の精選に努めることも必要である。
- ・ 卒業生だけでなく、多くの方に集まってもらい、高校の大応援団をつくれるよう、取り組んでももらいたい。飛騨神サポーターの組織化について、また、吉城高校との部活動の連携について、市も一緒に考えたい。
- ・ 来年度の協議会は、今回のように、評議員会と同時開催できるとよい。